



自助

自分と家族

「自分と家族の安全を守ること」は防災の基本です。特に、災害時は早めの避難判断をすることがとても重要です。



情報の収集



備蓄品(非常持出袋)

共助

区、自治会等

地域住民が手を取り合い、助け合うことです。一人では小さな力でも、みんなが集まれば大きな力になります。



公助

行政・防災機関

町・国・県や、消防・警察・自衛隊などの行政機関の防災に関する活動です。



救助・救急活動



情報発信・情報伝達

自助・共助・公助が上手く連携を保つことで、防災対策は効果を発揮することができます。

例えば、阪神・淡路大震災や東日本大震災クラスの大規模な災害が発生すると、交通の阻害や同時多発する火災への対応等から、公的機関による「公助」だけでの対応には限界があります。

事実、阪神・淡路大震災では、家屋の倒壊による生き埋めや建物などに閉じ込められた人のうち、約98%は自力または家族や隣人に救助され、公的機関に助けられたのは、わずか2%程度だったというデータがあります。

災害が大きくなるほど、被災者数は膨大になり、情報は混乱し、道路や橋梁等の公共施設が被害を受けるため、公的機関が発災直後に適切で迅速な対応を、全てに対して行うことは困難となります。

このため、発災直後の防災活動において、自らの身を自らで守る「自助」と地域社会が協力してお互いを守る「共助」の2つの地域の防災力が大きな役割を果たすこととなります。

生き埋めや閉じ込められた際の救助

自力	家族に	友人に・隣人に	通行人に	救助隊に	その他
34.9%	31.9%	28.1%	2.6%	1.7%	0.9%

(公社) 日本火災学会：「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」(平成8年11月日本火災学会)

問総務課 ☎(57) 4112